

透析管理手帳を災害時に活かすための工夫

金 睦子、佐藤洋子、松橋美結希、板垣公子
船木晴子、鎌田恭子、菅原美保子
秋田組合総合病院 腎臓病センター

Practical Use of Dialysis Data Book for Disasters

Mutsuko Kon, Yoko Satoh, Miyuki Matsuhashi, Kimiko Itagaki

Seiko Funaki, Kyoko Kamada, Mihoko Sugawara

Kidney Center Akita Kumiai General Hospital

<1 はじめに>

平成18年冬季の記録的豪雪は、交通手段の混乱をきたし、透析開始時間に遅れを生じたり、透析を諦めた人もいた。維持透析者は、生涯透析を継続しなければならない。

災害時に透析を維持するには、情報の共有を図ることが重要だが、災害を体験した人の中では、震災の衝撃で透析条件はおろかDWも覚えていない人が多数発生したとある。

当院も同様のことが起こりうるであろうと推測される。

赤塚氏¹⁾は、災害対策のための対策よりも、日常業務で毎日やっていることをいかに災害時に役立てられるかを考えないと使える対策にならないと述べている。

このことから、災害時情報提供できるものとして現在使用している透析管理手帳（以下手帳とする）に着目した。

そこで、透析者・看護師に意識調査を行い、現在使用している手帳の内容を見直し、改善・工夫をしたので報告する。

表1

研究方法	
研究期間	平成18年6月10日～11月18日
調査期間	平成18年8月21日～8月31日
対象	当院通院透析患者116名回収98名 当院透析看護師16名回収16名
方法	記述式無記名アンケート調査
倫理的配慮	本研究の主旨を口頭と文章で説明し 協力を得た

<2 研究方法>

対象：当院通院透析者116名回収98名

当院透析看護師16名回収16名

方法：記述式無記名アンケート調査で倫理的配慮から本研究以外は使用しない旨説明した(表1)。

< 3 結果 >

回答を得られた透析者を年齢別にみると、65歳以上が98名中45名であった(図1)。

通院範囲をみると、北は男鹿南秋地区・一部能代近郊、南は由利本荘地区からであった(図2)。

通院手段としては、自立者54%・要介助者46%であった(図3)。

自分のDWが答えられるが96.8%、自分のシャント動脈と静脈が答えられるが81.1%であった(図4)。

手帳を持っている83%、持っていない17%だった(図5)。

手帳の記載状況では、内容を記入していないが45.6%であった。その理由は、検査内容・用語がわからない、面倒だからであった(図6)。

透析に遅れるとしたら連絡する71%、30分以内が50%であった。

看護師側の回答では、手帳の記入を頼まれた100%で、内容は検査結果がほとんどであった(図7)。

手帳は災害時に利用できると思うかについて、出来る75%で理由は、不足部分の追加や内容の検討、記録がきちんとしている場合現在の状態を適切に知らせることができる等であった(図8)。

改善・工夫をした当院の手帳である(図9)。

当院手帳の改善した点と工夫した点は、重要な内服薬と他院で透析を受ける場合の保険証等、近隣透析施設名・電話番号等を手帳に添付した(図10)。

その内容の一部を拡大し、ラウンジに掲示した(図11)。

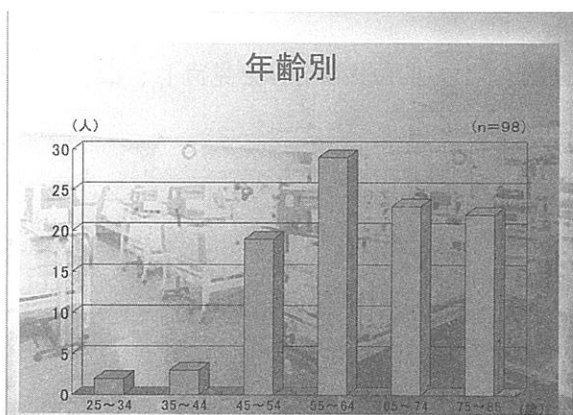


図1



図2

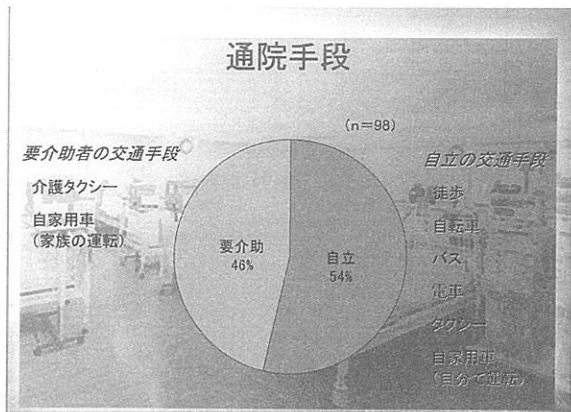


図 3

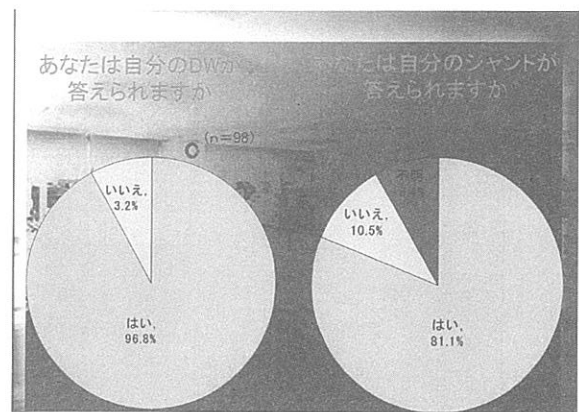


図 4

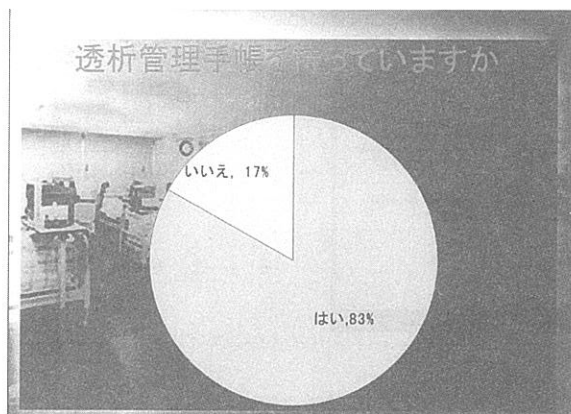


図 5

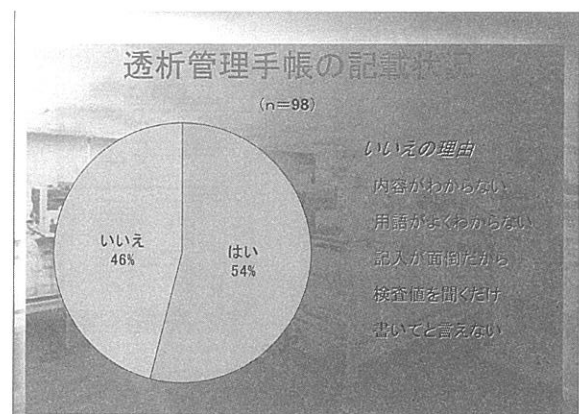


図 6

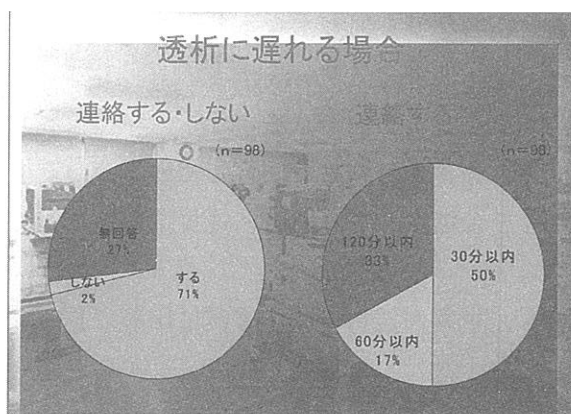


図 7

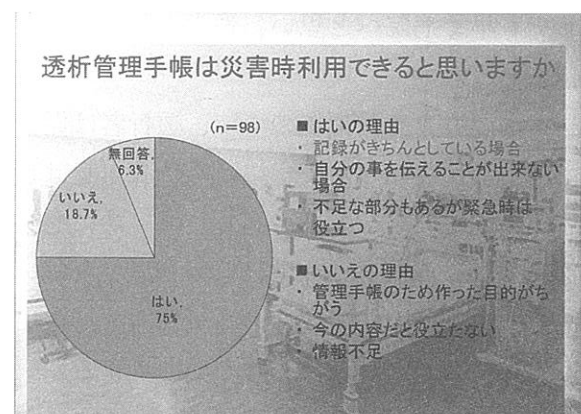


図 8

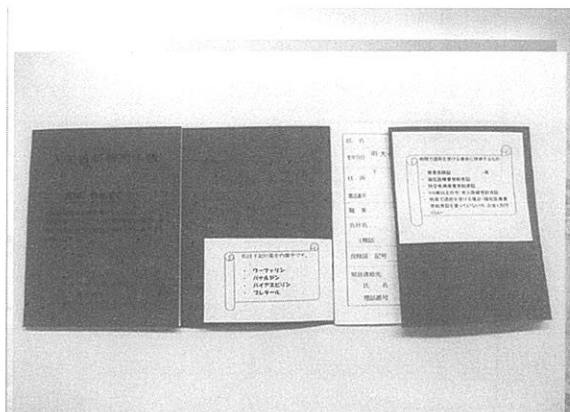


図9

私は下記の表を内服中です。

- ・ アーファミン
- ・ パナルジン
- ・ パオキアミン
- ・ フレシタル

病院で透析を受ける場合に持参するもの

- ・ 健康保険証
- ・ 特定医療費受給資格証
- ・ 特定疾病医療費受給資格証
- ・ 65歳以上の方: 老人医療受給資格証
- ・ 他県で透析を受ける場合: 福祉医療費受給資格証を貰っていない方: 対金1万円<small>以下</small>

改善・工夫し、添付した内容

《 イザという時のために 》

★ 緊急で、透析の透析が受けられない場合に最寄りの他の透析施設も覚えておいてもよろしいかと思います。

秋田市	(医) 皮膚科泌尿科石田医院	018-832-0303
	(医) 秋田県立病院	018-833-6551
	(医) 秋田泌尿科クリニック	018-830-3220
	(医) 秋田南クリニック	018-833-1355
	いしや内科腎臓クリニック	018-839-7807
	博和病院	018-832-7667
	立木医院	018-830-7222
	市立秋田総合病院	018-823-4171
	おのぼろ泌尿科クリニック	018-832-6133
	秋田赤十字病院	018-829-5000
	秋田大学医学部附属病院血液浄化療法部	018-864-6239
	(医) 中道総合病院	018-833-1222
男鹿市	男鹿みさと市民病院	0186-23-2221
鷹上町	鷹上記念病院	018-878-3131
南秋田市	南秋田総合病院	018-876-2100

図10

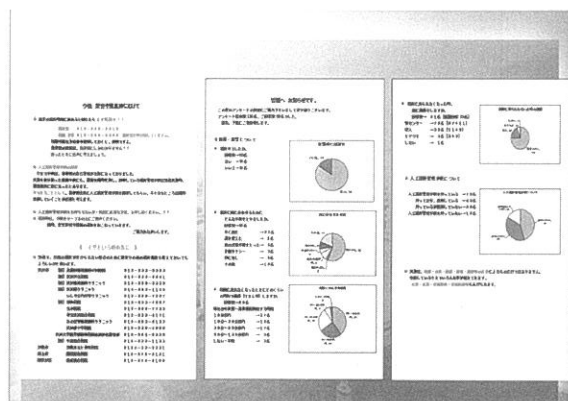


図11

< 4 考察 >

意識調査の結果では、通常の透析開始時間に遅れる場合、71%の方が連絡を入れると答えているが、今回の豪雪で実際に連絡を入れたのは3%であった。連絡をいれなかった理由として、少しでも早く病院へと思い、通常より早く自宅を出たから、遅れても何とかかなると思っていた等多様であった。

雪国という生活環境の中で、透析者は災害と感じていなかったと思われる。

はじめにも述べたように、透析者自身はDW・シャント等答えられると回答しているが、透析者の高齢化・要介護率も高く、災害時に他施設での透析を余儀無くされた時、透析情報を本人で伝えられる可能性は非常に低いと思われる。

万一に備え、病院からの透析情報を持ち出せなくても、本人が透析情報を確実に伝達できるようにしておかなければならないと考える。

また書誌文献では、災害用に作ったカードよりも日常看護師が検査結果・CTRなど他のデータ記載や、生活指導内容のノートが役に立ったとある。

しかし当院手帳の活用していない理由としては、検査内容や用語がわからない・面倒だからと答えていることから、関心の低さ・携帯の必要性の低さが伺われる。

看護師側では、生活指導が重点を置き、手帳への記入を積極的に働きかけていなかったことも

原因のひとつと考えられる。

手帳の携帯については、日常から携帯する必要性を説き、内容の改善や工夫した点を掲示し働きかけた結果、最近では手帳の記入を申し出たり、新規に手帳を求めた透析者もあり、関心を高めることにつながったと考える。

災害時に備え現在使用の透析管理手帳に、必要と思われる透析情報の内容を、追加添付するなど改善を重ねることで、いつどんなときでも活用できる、充実した当院の透析管理手帳にしていきたいと考えている（表2）。

表2

考察

- ・ 透析に遅れる場合
 - ・ 通常の透析開始時間に遅れる場合に、71%が連絡を入れると答えているが、今回の豪雪で実際に連絡をくれたのは3%だった。
- ・ 連絡を入れなかった理由
 - ・ 少しでも早く病院に着こうと家を早く出たから
 - ・ 遅れても何とかかなと思っていた。
- ・ 透析者の高齢化・要介護率の高さから、他施設での透析を余儀なくされた場合、透析情報を自身で伝えられる可能性は低い。
- ・ いざという時には日常生活の指導ノートが役立つ。
- ・ 現在の透析手帳への関心の薄さ、携帯の必要性の低さが伺われる。
- ・ 看護師側も生活指導には重点を置いていたが、手帳に関する積極的な働きかけが不足していた。
- ・ 内容の改善・工夫した点を手帳に添付し、又、ラウンジに掲示した。

<5 まとめ>

1. 現在の透析管理手帳が今後有効活用できるよう改善・工夫した。
2. 豪雪を経験して災害時における対応等の課題がみえた（表3）。

表3

まとめ

1. 現在の透析管理手帳が今後有効活用できるよう改善・工夫した。
2. 豪雪を経験して災害時における対応等の課題がみえた。

引用文献

- 1) 赤塚東司雄：患者カード作成と活用性. 透析ケア. 12(7). P698-701. 2006

参 考 文 献

- 1) 富永正志：患者の災害教育．透析ケア12(7)．P702-706．2006
- 2) 斉藤六温：新潟県中越地震に見舞われた現地病院からの報告．日本農村医学会雑誌．第54巻第3号2005年9月
- 3) 財団法人山梨厚生会：情報の更新が簡単で携帯しやすい災害時透析患者カード導入の取り組み．アンドユー．P18-19．early autmn．2006．